

## 【金融経済環境】

2023年度上期のわが国経済は、主要国の金融引き締めに伴う世界経済の減速や中国経済の回復の遅れなどを背景に、輸出や生産が緩やかな持ち直しに止まったものの、コロナ禍からの経済・社会活動の正常化が進む中で、設備投資が堅調に推移し、個人消費が持ち直し基調を辿るなど、全体として緩やかに回復しました。ただし、海外の経済・物価の動向や為替の動向など、依然として先行きは不透明な状況が続いています。

当地方の経済は、輸出や生産の一部に足踏み感がみられたものの、主力の自動車産業が上向いたほか、設備投資が底堅く推移し、個人消費も持ち直しの動きが続くなど、緩やかに回復しました。

## 【2023年9月期の業績等の概要 (連結)】

業績につきましては、経常収益は、外貨建の貸出金利息の増加による資金運用収益の増加及び株式等売却益の増加によるその他経常収益の増加を主因として、前年同期比183億38百万円増加の795億6百万円となりました。経常費用は、外貨調達費用の増加による資金調達費用の増加を主因として、前年同期比88億22百万円増加の562億83百万円となりました。この結果、経常利益は前年同期比95億15百万円増加の232億22百万円となり、親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期比71億95百万円増加の166億55百万円となりました。

## 【2023年9月期の業績等の概要 (単体)】

業績につきましては、経常収益は、外貨建の貸出金利息の増加による資金運用収益の増加及び株式等売却益の増加によるその他経常収益の増加を主因として、前年同期比180億37百万円増加の794億57百万円となりました。経常費用は、外貨調達費用の増加による資金調達費用の増加を主因として、前年同期比88億82百万円増加の562億22百万円となりました。この結果、経常利益は前年同期比91億55百万円増加の232億35百万円となり、中間純利益は前年同期比65億68百万円増加の166億78百万円となりました。

主要勘定の残高につきましては、貸出金は前年同期比3,442億円増加の7兆4,889億円、預金等（譲渡性預金含む）は前年同期比2,663億円増加の9兆2,688億円、有価証券は前年同期比768億円減少の1兆6,933億円となりました。